新たな議会構成

（平成26年12月1日現在）
◎は委員長、○は副委員長です。

建設経済常任委員会　7人

（後列右から）
鈴木　昌一
太田　淳一
渡部　寛一

（前列右から）
志賀　稔宗
◎中川　庄一
○田中　京子
竹野　光雄

広報特別委員会　6人

（後列右から）
今村　裕
田中　京子
但野　謙介

（前列右から）
○太田　淳一
◎田中　一正
岡崎　義典

但野 謙介 議員

見通しをもった生活再建を

問 仮設住宅に関しては、生活を再建するという目的が一つはっきりしている。丁寧に市民の生活の状況を把握し、再建を後押ししていかなければいけない。時間的猶予をもたせて計画的に取り組むことについて見解を伺う。

答 安易には集約はできない。学校や仕事、通院などの個別事情について平成27年の早いうちにはどこの仮設に集約し、どこの仮設を廃止するか、仮設住宅に入居されている方々との話し合いを進めていかなければならない。平成28年度中には仮設に入居されている方々や土地を借りている方の意向も踏まえ、どこの仮設住宅を残したらいいか検討していく。

問 多様な企業誘致や起業の支援策が必要。見解を伺う。

答 先進地を調査して課題を整理する必要がある。情報の発信や地域と交流体験等を拡充していきたい。

問 地元企業と連携して地域を挙げてU・Iターンの受け入れ体制づくりを進めていく必要があるが、考えを伺う。

答 企業の研修やサテライトオフィス、U・Iターンについては、受け入れ側である地元との友好な関係づくりが重要。市内の民間事業者の方を中心として受け入れ体制を検討し始めており、大変大きい一歩と考える。市として助成なのか、起業支援の窓口か、民間主導で想いをもった方たちと進めていきたい。

大手企業の研修の様子（南相馬ソーラーアグリパーク）

質問を終えて

南相馬独自の企業支援が立ち上がりつつある。意欲的に進めてほしい。

その他の質問

❶市外の仮設住宅の対応について
❷南相馬市内の企業研修支援について
❸U・Iターンと起業支援について

田中 一正 議員

農業再生への道しるべは如何に

問 平成27年産米の作付け実現のため、市としてどのような支援策を考えているのか。

答 JA相馬は水稲の作付け目標を千500㌶と掲げており、うち千300㌶は飼料米を中心とした作付けを計画している。種籾の確保と苗の生産体制の確立に向けて指導していく。

問 飼料米中心の作付けということだが、国の政策では収量が多くないと交付金が満額出ない。そのためには多収穫用の飼料米専用品種を使わなくてはならない。対応策を伺う。

答 飼料米の普及に向けて、JA相馬と農家の懇談会を検討している。

問 これまでより作付面積が増えるが、有害鳥獣の対策については。

答 電気柵については要望に応じて十分配布できるように県と協議を進めて行く。

問 水稲の損害賠償は本年度で終了と聞いているが、作付け出来ない農地については、賠償が継続するように要請すべきと思うが。

答 20km外の水稲の作付け自粛の損害賠償は対象外となる。

問 昨年、太田地区で100ベクレルを超える米が出ている。原因はまだわからない。そのような状況の中で、作れない方も出てくると思うが別枠で求めて行く考えについて伺う。

答 早い原因究明をお願いしている。賠償は地域単位で国が指定してくるもの。個別の賠償については出来ないものと考える。

旧太田村の放射能調査（坪刈り）

質問を終えて

昔の田園風景は返ってくるのか。農機や身体の老朽化、価格下落等、課題が山積み。

その他の質問

❶担い手の育成策は
❷耕作放棄地対策はどうか
❸生産意欲の湧く農業振興策はどう考えるか